

霊宝館

霊宝館は、仁和寺がその歴史の中で収集してきた仏像、絵画、写経、書簡などの貴重な品々を保管・展示しています。見どころのひとつは、9世紀の開山当時に遡る阿弥陀三尊像で、国宝に指定されています。1867年までは皇族が門跡を務めていたこと、天皇の手書きの文書や門跡宛の文書が数多く残されていることから、仁和寺がその歴史において朝廷と密接な関係を持つ場所だったことを物語っています。

この、日本古来の土蔵建築を彷彿とさせる鉄筋コンクリート造りの建物は、建築家の片岡安（1876～1946）の設計によるものです。1927年に竣工し、登録有形文化財です。霊宝館は、毎年4月1日と10月1日の2度、約50日間、開催される「名宝展」の期間中に一般公開されています。